



スコットランドの風

JSA 総会開催お知らせ

第三回総会、英国大使館にて開催決定

2015年5月29日(金)17時からNPO法人日本スコットランド交流協会第三回総会を昨年同様、駐日英国大使館で開催いたします。ゲストスピーカーは、スコットランド国際開発庁日本駐在代表でJSA大使としても対外的に活躍中であるStephen Baker氏をはじめ、Scotlandと日本を繋ぐ方々にお越し頂く予定です。18時から始まる懇親会では、昨年素晴らしい演奏で皆さんを魅了したプロバイオリニストの山内達哉氏、Scotland文化を感じるバグパイプの演奏や会員の方々との交流など華やかで楽しい時間をお過ごし頂ければと思います。JSAも現在211会員の皆様に支えられる協会に成長しました。年に一度のJSA総会にご家族、ご友人もお誘い合わせのうえ、是非、ご参加下さい。(齊藤七生)

第2回文化公演とJSA奨学生帰朝報告会報告

2015年1月24日、本協会主催による第2回文化公演とJSA奨学生帰朝報告会が早稲田大学国際会議場にて行われました。奨学生帰朝報告の報告者である堀内長太郎氏は、2013年度のJSA第1回奨学金を得て、同年9月にスターリング大学に入学し、在学中はStudent Ambassadorも任務、2014年に修士号取得後、2014年11月からはスコットランド国際開発庁に勤務されております。その第1部の基調講演では、堀内氏から協会に対する奨学金のお礼の言葉とともに、スターリング大学の魅力、留学中の学生生活等、経験者でしか語ることのできないとても魅力的な話題が提供されました。

また第2部の文化講演会では、「ケルト」紀行シリーズ全10巻、『スコットランド「ケルト」の魅惑』等、ケルト文化について多数の書籍を執筆しておられる元読売新聞記者、日本ペンクラブ会員でもある武部好伸氏が「スコットランドのケルト」という公演題目で、スコットランドのケルトの歴史、宗教、文化、用いられている言語の成り立ち、ウイスキーの話題等、とても魅力のあるお話をお話するポイントでの映像を駆使して提供して下さいました。スコットランドに旅したこともある参加者も、ない参加者も武部さんの魅力ある語りでケルトを通じたスコットランドの魅力や再認識するに至りました。

公演後の懇親会にも多くの方が参加して下さい、満員御礼のとても有意義な文化講演会、JSA帰朝報告会となりました。このような素晴らしい文化講演会ができるのは日本スコットランド交流協会ならではの人脉かと思えます。スコットランドに興味のある方、スコットランドを愛する方、スコットランドに旅行・滞在した経験のある方、スコットランドの研究者等、あらゆる方、あらゆる年齢層の方のために益々、日本とスコットランドの文化、学術、ビジネス等、あらゆる交流を促進させることを目指して、また、来年度も文化講演会を企画しますので、会員の皆様、どうぞ楽しみにして下さい。(石川晃士)



武部氏の講演風景



前列左から山口副会長、野間氏、関会長、武部氏、市毛氏、岩田氏、光氏

会長挨拶

JSAの活動について毎回、皆様に嬉しいご報告ができることを大変喜ばしく思っております。現在、ScotlandのStirling大学に滞在中(2月11日~3月29日)です。2月24日から26日の3日間に渡って開催されたJSA後援のJapanese Weekは、名誉会員の北岡総領事の基調講演を始め、ケイト・片桐夫妻によるCampus内の自作の彫刻解説Tourや香川ヒサさんの短歌の講演、私も箏演奏で参加するなど、JSAメンバーの大活躍によって成功裏に終えることができました。市毛勲氏寄贈の本の展示も花を添えました。現在7週間English Courseに参加している日本の学生(数名はJSA学生会員)も一丸となって支えてくれ、JSAの柱の一つである日本文化の紹介に貢献できたという喜びに満たされております。

2月14日にはEdinburgh大学で学んでいる第2回奨学生の濱田里美さんと会い、勉学に励んでいる様子を見て参りました。さらに今年は協会として初めてCD作成に携わりました。実際の作業は、お二人ともPiperである斎藤ご夫妻にすべてお任せした形になりましたが、とても素晴らしい出来で、CDのPlayerであるMuirhead氏がそれを縁に会員になって下さるというご褒美で頂きました。

昨年4月から現在までに新たに入会された会員の方は69名を数え、JSAが歩んでいる道は間違いがないと確信しております。今までの活動は、すべて会員皆様のご支援があつてのことです。今後とも、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

Japanese Week 2015

第3回 Japanese Week が 2015 年 2 月 24、25、26 日の三日間に渡りスターリング大学で行われました。

学長からの開会の辞で、第3回 Japanese Week の後援団体として NPO Japan Scotland Association と Japan Society of UK の名が挙げられました。以下、様々なイベントの様子を写真とともにとお楽しみください。

24 日 -First Day- 関妙子



Mrs Tabner、浜崎氏、McCormac 学長、総領事北岡氏、副総領事石神氏、関会長、Gardner 副学長、Ms Bryson



会場の様子



駐エディンバラ日本総領事北岡氏の講演の様子

初日は、日本語教室に始まり、その後 JSA の名誉会員にいただいている駐エディンバラ日本総領事北岡氏の基調講演「Scotland as I see it...」へと移りました。ユーモアを交え、Scotland を多方面から、時には具体的な統計数値を用いて分析され、最後にはすべてを大きな流れ「Scotland に対する信頼と愛情」に集約された Speech は、その内容と洞察力の深さで 230 名を超える聴衆を魅了しました。

講演では、Scotland 独特の大変濃い文化を愛情をこめて日本語で「こてこて文化」と説明され、「こてこて」の意味を解説された時には、会場が笑いの渦に巻き込まれました。England との比較では Scotland の特徴を以下の 4 点にまとめられました。① More egalitarian : 社会がより平等である。② More pro-welfare: 福祉がより行き届いている。③ Less Eurosceptic: EU に対してより積極的。④ More tolerant to migrants: More tolerant to migrants: 移民に関してより寛容であること。次に、独立→合併の歴史を説かれ、Union であるためにより広い活躍の場を得て多くの Scotts が産業革命で活躍できた利点などにも触れながら、最近の独立の気運の高まりを社会・経済の変化による必然とされました。教育水準の高さを歴史的に立証したうえで、日本の近代化（明治維新）で最も貢献したのは Scotland であることを具体的な例を挙げて指摘されました。

最後に、Scotland と日本の関係は、過去のものだけではなく、現在、津波以降の新たなエネルギーを模索中の日本と、その分野で世界の注目を浴びている Scotland が技術的な面で協力し開発を進めている例を挙げ、Scotland は日本にとって Teacher for modernization ! Teacher for the future of Japan ! というフレーズで Speech を終えられました。内容が非常に豊富で、紙面での再現は不可能です。いつの日か JSA の会員の方が直接話を伺える機会を設けたいと思いました。

講演後、領事館で料理を担当されている浜崎祐樹さんによる寿司 Cooking の実演があり、鮮やかな手際で巻きずし、握りずしを作っていく様子に歓声があがりました。

その後、昨年同様、領事館から参加者へ 1500 皿を超える寿司が振る舞われました。



右：領事館料理人浜崎祐樹氏
上：振る舞われたお寿司



市毛勲氏寄贈の日本原色美術図鑑展示風景

期間中には、会員の市毛勲氏寄贈の日本原色美術図鑑（全 32 巻）が特別展示され、さらに、昨年同様に設置された東日本大震災復興支援のチャリティショップでは被災者手作りの商品が販売されました。

中でも、カラフルな靴下で作られたサルのぬいぐるみ「おのくん」は即日完売するほどの人気でした。



東日本大震災復興支援のチャリティショップ風景



習字、折り紙、箏のワークショップが開催され、多くの人々が参加しました。今回も昨年同様、跡見学園大学から習字道具と折り紙の寄贈があり、より多くの人々が楽しめる環境が整っていました。



26 日も続いて開催された折り紙、書道、お箏のワークショップでは、両日多くの参加者を集め、これらを指導する日本人学生が不足しているように感じられるほどの盛況ぶりをみせました。

現地の方々による空手のデモンストレーションでは幅広い年齢層の方が技を披露し、彼らから発せられる熱気と迫力の素晴らしさに感嘆しました。



空手デモンストレーション風景



明治維新の日本近代化を支えた **Scottish Engineers** の話を中心とした清水健さんの講演「**Scoto-Japanese English Relations-Yozo Yamao and Kaichi Watanabe**」がありました。東京大学工学部の前身である工部寮を設立した山尾庸三と 20 ポンド紙幣に描かれて

いるフォースブリッジの建設に携わった渡辺嘉一の 2 名を取り上げ、日本と **Scotland** の緊密な関係を大変興味深く解説されました。

写真：水建氏公演風景

箏コンサートでは **JSA** 関会長と会員の鈴木瑞徳さんが「千鳥の曲」、「日本のわらべ歌」、「鷹」といった日本の曲を演奏し、バイオリンの川口ゆりさんを加えスコットランド民謡「オールド・ラング・サイン（蛍の光）」で多くの聴衆を魅了し、幕を閉じました。箏コンサートの司会では、箏の歴史、曲の説明などを、現在英語を学んでいる数人の日本人学生が行い、彼らの英語力を披露する良い機会となり、これも大変評判を呼びました。



関会長と鈴木瑞徳さん演奏風景

Japanese Week 最終日は、片桐宏典・ケイト夫妻による彫刻ツアーを皮切りにスタートしました。スターリング大学構内のあらゆる場所に設置・展示されている独創的な夫妻の彫刻作品を、彼ら自身が一点一点解説しながら見て回るといふもので、途中悪天候に見舞われるというアクシデントがありながらも、日本人学生を中心としたツアー参加者はみな、熱心に彼らの話に耳を傾けていました。

この日のハイライトとも言える短歌と俳句のプログラムで、歌人の香川ヒサさんと英語俳句の先駆者であるアラン・スペンスさんをゲストに迎えての講演が行われました。



彫刻ツアー風景

「短歌と俳句の違い」や「短歌の歴史」などについて触れた香川さんのレクチャーの後に、スコットランドを題材にして詠まれた香川さんの短歌やアランさんの英語による俳句をみなで鑑賞しました。



香川ヒサ氏、Prof Spence 公演風景



左から Mr Watt OBE、北岡氏、関会長、清水氏、Kate 氏、前原氏、片桐氏

Japan week は、「現地の人々と日本文化を通じてふれあうことのできる機会である」ということはもちろんのこと、「私たち自身が日本の文化について再発見・再認識できるきっかけでもある」ということを改めて実感できた 3 日間でした。

最後に、今年も **Japanese Week** 開催にご尽力いただいた、**Ms Kerry Bryson** , **Ms Suzie Huggins** に心からの感謝を申し上げます。

2014 年度奨学生 近況報告

濱田里美

この度は奨学生としてご採用いただきありがとうございます。私は現在、エジンバラ大学の MSc in Medieval Literatures and Cultures のコースにて学んでおります。学生3人という非常に小さなコースですが、その分教員やクラスメイトとの距離が近く、また、ある授業では大学や National Library of Scotland の所有する数多くの写本に実際に触れ、ページを繰るといって大変貴重な経験をさせていただいております。文学、美術、歴史などを研究する院生からなるソサイエティにも参加しており、城跡や教会跡といった歴史的建造物に直接触れる機会を持つことができるのも留学の大きなメリットであると考えております。エッセイや修士論文の執筆など、今後ますます忙しくなることが予想されますが、皆様にきちんとご報告ができますよう残りの日々も勉学に励む所存です。



各支部活動報告

JSA 東京

東京本部では毎月、初心者向けの英会話教室(第3土曜日 15時~16時半、蓮沼)と、実践英会話の「Discussion in English」(第2土曜日 17時~18時半、目白)を開催しています。その他、Stirling 大学語学留学コースの Director、Ms Maria Castilla 歓迎会、スコッチウイスキーを楽しむ会も開催し、新たな会員獲得や会員同士の交流の場となっています。(関妙子)



JSA 関西

「Scottish Day in KYOTO」が2014年11月8・9日に開催されました。

「京まちなかを歩く2014」などと JSA が共催、参加者約1000名という大盛況でした。バグパイプバンドのパレードで開会し、木造の旧小学校講堂や校舎ではスコットランド音楽やダンス、和太鼓のステージや、映画の上映会が催され、校庭ではビール、ウイスキー、鹿肉料理などの飲食や、ハリス・ツイード等の物販を楽しむことが出来ました。フィナーレは、バグパイパーと京都出身ソウルシンガーという異例のコラボによる大音量のステージで終了しました。来年も開催する方向で調整したいと考えています。(香川久生)



JSA 九州

2014年11月16日、宮崎市制90周年・英国式庭園15周年記念パーティーが「宮崎市国際海浜エントラプラザ英国式庭園」にて開催されました。共催の「宮崎日英協会」からメインイベントとしてバグパイプ演奏の依頼を受けました。「JSA 中国支部」の杉山理事に演奏のお願いをしたところ、快く引き受けて頂き、山口からわざわざこのために来てすばらしい演奏をして頂きました。英国式庭園に初めてバグパイプの音が響き渡り感動を覚えしました。

演奏後も杉山氏はバグパイプと言う珍しい楽器に興味を持った子供達の相手をして下さいました。和やかなうちに会は終了し、最後は杉山氏と一緒に写真撮影でお開きになりました。(前原正人)



JSA 会員紹介

宮崎公立大学学長：林 弘子

2013年4月1日に宮崎公立大学の学長になるまで、イギリスに行ったことは何度もありましたが、スコットランドとは縁がありませんでした。学長就任直後の宮崎公立大学開学20周年記念式典に、スターリング大学のマッコーマック学長が宮崎まで来られて、両大学の学術交流協定の調印式が行われました。昨年3月にスターリング大学に招かれた際には講演を依頼され、学長自ら運転してエディンバラ、グラスゴーを案内してくださったことも含めて、大歓迎を受けました。スターリング大学には、語学研修生・留学生を派遣しており、スコットランドとの友好関係をさらに深めて参りたいと思います。



ヴァイオリニスト・作曲家・音楽プロデューサー：山内達哉

桐朋学園芸術短期大学講師・エディンバラ在外交館長表彰・第一回埼玉県グローバル賞受賞・埼玉県新善大使・都城市特派大使・朝来市観光大使など多方面で活躍されています。宮崎県出身で、日本の原風景や歴史を作曲・演奏活動のテーマとし、JSA の総会では毎年美しい演奏で会員の方々に魅了しています。2011~2012年に幼少の頃から憧れていたスコットランド(エディンバラ、スターリング、インバネスなどの7つの都市)で、在エディンバラ日本国総領事館主催のコンサートを開催された際には、現地の音楽や壮大な大地の広がりにも触れ、ヴァイオリンの更なる可能性を感じられたとのこと。特に「アニーローリー」に尺八を加えてアレンジした演奏は大好評で、アニーローリーの生家で子孫の方々に演奏する機会も得られたそうです。



マッサンと JSA

2015年3月28日、大盛況のうちに放送を終了したNHK連続テレビ小説「マッサン」。実は制作前からJSAとの縁がありました。関会長、事務局齊藤さん、JSA会員G.Muirheadさんが名作を支えたエピソードを語ります。

製作での関わり

関妙子

2年ほど前、NHK大阪のディレクターがJSAを訪ねてきて、まだ構想の段階にあった「マッサン」の話をされ、身長170センチ以上で、スコットランド訛りのUpper Classの英語を話せる典型的なスコットランド美人を紹介してほしいというお話を受けました。すぐに浮かんだのが、JSA理事のケイトさん。すべての条件を満たしている上に、若い時に舞台女優として活躍の経歴もあり最適だと思いました。残念なことに若いころのリタ（ドラマではエリー）さんが中心とのことで（ケイトさんすみません）実現しませんでした。ドラマが実現したらScotland情報など提供することを約束しました。JSA関西のモードさんを紹介したところ、彼女からScotlandの生活などの情報を得られたようです。縁は続き、11月5日有楽町の外国記者クラブで行われたエリー役のシャーロット・

幸運なことに、マッサンの孫にあたる竹鶴孝太郎さんと隣り合わせになり、同居されていたおばあ様（リタさん）は大変しつげに厳しい方だったなどの昔話を伺うことができました。個人的なことではありますが、私が嫁いだ先（醸造業）で同居していた義理の祖父関善次郎は、モデルとなった竹鶴正孝さん（マッサン）と大阪大学で醸造業と一緒に学んだクラスメートで、柔道も一緒にしていたとよく本人から話を聞かされており、縁の深さに今更ながら驚いています。



竹鶴孝太郎氏と関会長

音楽での関わり

齊藤七生

バグパイプの名曲全17曲を収録したJSA初の公認CDが、1月21日ユニバーサルミュージック(USM)よりリリースされました。昨年秋、USMディレクター星野氏から、NHKドラマ「マッサン」や昨年9月の国民投票で、スコットランドへの関心が高まっているのでバグパイプのCDを企画したいとご相談を頂き、CD制作がスタート。仙台在中のパイパーG.Muirhead氏が演奏し、私がCD冊子にエッセイと写真(JSA片桐氏も)を提供、CDジャケットにはドラマ「マッサン」のシールを貼っての発売となりました。店頭では、マッサンの主題歌を歌う中島みゆきさんのCD隣で販売するプロモーションとのこと。読売新聞にも取り上げられ、順調に販売を伸ばしています。今回は、USM星野氏のご好意でJSAのPRページやCDジャケットには「JSA公認」と掲載して頂きました。このCDをJSA会員特別価格で販売します。是非、バグパイプの壮大で包み込むような音色をお楽しみください。

販売価格2500円(税込2700円)のCD「蛍の光」をJSA会員特別価格2200円(税込)で販売致します。詳しく内容に関しては、下記までお問い合わせ下さい。お問い合わせ先: info@jpn-scot.com または各支部まで お問い合わせください。総会でも販売予定です。



Recording of the Auld Lang Syne CD. November 2014

Gerald Muirhead

Recording proposal

At the end of October I received a call from Universal Music Japan's music producer. He explained the company intended to record and release a Scottish bagpipe CD with some Japanese tunes, it was associated with the Maa-San NHK drama. And he wanted the complete recording finished in one month. Two weeks preparation, two weeks studio recording. I thought difficult but possible!

We set up a preparatory meeting in Sendai. He arrived with their sound engineer. They requested 17 tracks; a mixture of Scottish Folk, traditional and modern bagpipe tunes and some Japanese melodies. USMJ chose 5 and I chose 12 tracks. We then negotiated the budget including recording fees and transport expenses and for the musicians.

The next day I contacted some musician friends in Tokyo and Sendai and brought together a diverse group of folk, trad & classical musicians. For melodies that were suited to the Scottish bagpipe scale I used the GHP, for other melodies I used uilleann pipes, custom made electronic pipes or a tin whistle.

Musical arrangements & schedule

Then made a schedule for recording, wrote out the arrangements, some of which were difficult; notably the key change in Wild Mountain Thyme and Mull of Kintyre I had to use a Bagpipe pitched in A for the latter. The production manager wanted me to include at least one my own compositions. So around that time I started "Autumn's Fleeting Splendour" but the "B" part was incomplete. Finally it came to me at home so I wrote it down on manuscript. Later a friend helped with the accompaniment. I sent the manuscript to the cellist & violinist about two nights before we finally recorded it on the second last day. Phew!

We successfully re-recorded the track on November 1st. In retrospect I wish we had some more time to re-record some tunes that were not perfect, but because of the early deadline this was not possible.

The Best Season ~ Edinburgh Now ~

片桐宏典

スコットランドの春は突然やってくる。コートの際を立て肌切る風を嫌っていたのに、泥灰色の冬空がある朝、吸い込まれるような碧青になっている。愛撫のような日差し。タマゴだらけの復活祭の頃には徘徊する夜が息をひそめる。道ばたに咲くクロッカスが眩しい。灰色の空はまた戻るが、確実に春の到来を高らかに告げている。ハイランド地方の小さな町で人々が冬の雪に埋まっていた車がある日一斉に掘り出して、せっせとバッテリーチャージしていたのを驚き覚えている。

日本では学校も社会も春が節目。透き通る緑と艶やかな花に囲まれて新たな自分に生まれ変わる。だが、スコットランドはまだ冬闇の余韻の中、逡巡する春の感触とともに人々は夏に向かって仕上げに入る時期。学生たちは大学進学を決めて最後の Exam に臨んでいる。本当の新たなスタートは秋、これからの初夏6月は最もいい季節—Best Season—と人々はいう。空もすっかり蒼青に落ち着き、全てをやり終えた人々は戸外で眩しい日差しと爽快な風を享受し、新たな始まりを見据えて夏を謳歌する。どちらも長い間に蓄積した力を思う存分発揮すべく、期待と希望に満ちた人生の Best Season である。



Edinburgh 市内、Meadows に咲くクロッカス

Easter ~Edinburgh Then~ Kate Thomson

Every Easter Sunday when I was growing up in Scotland my family would invite a close group of friends to paint Easter eggs with us and then roll them down the hillside. In the Christian tradition this marks the rolling of the stone from Christ's tomb, and the egg cracking symbolises resurrection. We always wondered if this tradition was routed in older Pagan customs celebrating Spring and nurturing new life.

One of my favorite annual egg rollers was the architect Duncan Black who always entertained us with party tricks and beautiful drawing skill.



It was not until I was an adult that I discovered this lovely warm, funny yet modest man was in fact the prestigious Deputy Chief Architect with a heroic past. Duncan was an airman during World War II. Shot down over Dusseldorf in 1943 he spent 2 days on the run before being captured and held as a prisoner of war at Stalag Luft III. Using his skills as a draftsman he led a team of forgers producing hundreds of passports, travel passes, etc. and played a central role in the most famous escape attempts of the war, the Wooden Horse and the Great Escape. Actor Donald Pleasance portrayed Black in the 1963 Hollywood film of "The Great Escape", but the real Duncan Black had to give up his place as an escapee due to illness and remained in the prison camp until liberated by American soldiers in May 1945.

The only time I ever heard Duncan talk about the war was at Katagiri's and my wedding when he slapped down a friend of my parents complaining that a Japanese and a Scot should not be a couple by saying "the only possible reason for what we went through all those years ago is for this happy event to be possible today". I began to appreciate that those who have seen great deprivation and suffering are often the keenest optimists looking for understanding and new beginnings.

Sadly Duncan suffered a stroke in 1993 and was no longer able to join our family for Easter egg rolling on the hills, so we decided to take it to him instead. Not able to speak he showed his approval by lifting his knees to make blanket hills on his bed for us all to roll the painted eggs down. Duncan died in September 1995 and I still think of him often, particularly in the Spring, when I remember his lovely smile and enthusiasm for life, laughing at the eggs rolling down the hills.

フィンラガンの黒牛

武部好伸

スコットランドのことを考えると、脳裏によく浮かんでくる場所があります。フィンラガン遺跡です。ウイスキー愛飲家にとって、聖地ともいえる西部のアイラ島にあります。

中世の一時期（1329～1493年）、「島々の君主」と呼ばれる有力な豪族マクドナルド家がそこを拠点とし、西部海域を手中に収めていました。その領土と支配権がスコットランド王国に剥奪されるまで、豊かなゲール文化が謳歌されていたのです。

池の中の小さな島に佇む遺跡は廃墟と化しており、もはや周りの自然に溶け込んでいます。かつての栄華今いずこ……。それでも、「古都」の前に黒牛たちが守護神のごとく居座っています。何だか幻影を見ているようで、たまたまなくロマンをかき立てられました。

遺跡に近づこうとしたら、一番手前の牛がのそっと立ち上がったので、思わず後ずさり。牛はしかし、悠然として左の方へ。ぼくの気持ちを察し、道を譲ってくれたのでしょうか。風の音が耳に心地よかったです。



Welcome to Japan!! スコットランドから来訪の方々

Kate Downie

It was wonderful to finally replace the Japan of my imagination with the reality of a month long visit in December 2014. During the first few days in Tokyo, we enjoyed the gastronomic tour de force of an 8 course meal in a Fugu restaurant, and saw many tourist sights including a Pachinko arcade in Akihabara 'Electric City' and experienced a boat ride beneath countless bridges of the Sumida river. After a few days we began our epic journey: Okayama, Kurashiki, Naoshima, Kumamoto, Mount Aso, Hagi, Hiroshima, Mayajima, Kintaikyo, Kyoto, Kanazawa and Takayama and eventually back to Tokyo where we visited Taeko Saki, then headed north as guests of our sculptor friends in Iwate- Katagiri Hironori and Kate Thomson. Exhibitions in Morioka, adventures on the ski slopes of Iwate San and the gastronomic and watery delights of our special Onsen hotel were some of the highlights in the north.



All along the way I made many ink drawings. I was fascinated by the contrast between the bustling industrial cities and constructed 'natural' tranquillity of the ancient gardens and temples. My next solo exhibition 'Estuary' will include many of my new Japanese drawings is due to open on April 1st 2015 at the Scottish Gallery on Dundas Street in Edinburgh.

2014年11月27日～12月27日：画家のケイト・ダウニー（Kate Downie）さんがご主人の写真家チャールズ（Charles）さんと来日、日本各地を回られました。年末には永年の友人であるJSA理事の片桐・ケイト夫妻の家で過ごされました。Kateさんは「橋」をテーマとしており、その作品は主要な美術館に収蔵されています。エディンバラを中心に展覧会を数多くされていますのでスコットランドに行かれた際には作品に触れてください。今回、日本で描かれた絵を特別にJSAに提供していただきましたので、滞在記とともに掲載させていただきます。（以下、日本語での紹介文：関妙子）



Alan Spence

In November of last year I was fortunate enough to make a short visit to Japan - my third in four years. (A blessing!) Like the previous trips, this one was to research a book I'm working on, and it was generously funded by the Carnegie Trust. The subject of my research was RH Blyth, a remarkable Englishman who published many influential books, including several volumes of haiku translation and the influential Zen in English Literature.

With Tokyo as my starting point, and armed with my Japan Rail Pass, I managed in three short weeks to visit many different places: Kamakura where Blyth lived for many years (and where he is buried, alongside his friend and mentor DK Suzuki); Kanazawa where Blyth taught; Gifu to meet a Japanese biographer of Blyth and see rare archive material. I ended with a few days in a Zen temple in Kyoto. It was a wonderful, inspirational three weeks, and inspired a sequence of haiku. Here is one to end:

breathing the air of Japan – woodsmoke on an autumn evening

2014年11月14日：アバディーン大学のアラン・スペンス教授（Professor Alan Spence）が奥様のJananさんと次回作の取材を兼ねて来日されました。アラン・スペンスさんは多くの賞を取られた作家でもあり、俳句も読まれ、英文の俳句集も出版されています。彼の作品にはトマス・グラバーの生涯を描いた小説「The Pure Land」、白隠をテーマとした最新作「Night Boat」などがあります。2月24～26日のスターリング大学での「Japanese Week」では俳句についての講演を、JSAの会員の歌人香川ヒサさんの短歌の講演とともにしていただきました。

Dr John Rogers & Ms Maria Cid Castilla

2014年11月23日～30日：スターリング大学からロジャー博士（Dr John Rogers）とマリア・カステラ氏（Ms Maria Cid Castilla）が来日しました。Mariaさんは語学研修のHeadとして日本の学生が大変お世話になり、現在その多くの方がJSA会員となっています。早稲田大学大隈会館での歓迎会では、20名を超える人たちが懐かしい話に花を咲かせました。



Professor John Gardner

2014年12月11日～17日：スターリング大学の副学長ガードナー教授（Professor John Gardner）が講演のため来日。主に、関西を中心に大学の国際化について講演されました。帰国の前日、東京で関会長と東北支部の事務長、青森公立大学香取真理教授とJSAと大学の相互関係を深めることなどについて会談しました。

Professor Stuart Picken

2014年11月6日：スコットランド日本協会の会長ピッケン教授（Professor Stuart Picken）が来日され、JSA会長関、副会長山口と両協会の協力関係をさらに深めていくことなどを中心に歓談しました。



倫弘のウィスキー四方山話 3

昨年12月に、スコッチ文化研究所（以下スコ文研）の企画・監修により第1回ウィスキー検定が実施された。ウィスキー検定は1～3級で構成されており、2、3級は誰でも受験可能だが、1級の受験資格は2級合格者に限定される。第1回検定は、2級と3級を対象に、札幌、東京、大阪、福岡で実施された。私はウィスキープロフェッショナル資格を有するが、興味があったので、2級を受験してみた。試験は選択式で、内容はウィスキーに関する基本的な知識に関する設問で、時事ネタも出題されていた。スコ文研の報告によると、級別の受験者数及び合格率は、3級が1291名で90.2%、2級は1379名で45.5%だったとのこと。年齢層では30才台の方が最多で全体の33%を占めるとの事、若い年代の方が多いうのには将来性を感じる。余談ながら私は141位で合格した。次回は5月31日に開催される。新たに日本のウィスキーの文化や歴史・製法を出題範囲としたJW級も実施される。申込期限は4月末日なので興味のある方はお早めに。



お知らせ

同窓会支援活動「JSA Scottish University Alumni Associations in Japan」発足 飯村英人

この度、JSAは新たな活動を開始します。その名は「JSA Scottish University Alumni Associations in Japan」。スコットランドの大学の同窓生の輪を広げるお手伝いをします。

●発足の目的

- 1、在スコットランド16大学の同窓会活動の手助け
 - 2、在学生、卒業生を問わずスコットランドの大学で学んだ方々の交流促進
- ※各大学の同窓会活動の情報をJSAホームページ、Facebookから情報発信してみませんか？
発信したい情報がございましたらinfo@jpn-scot.comまでご連絡ください。

JSAの会員の皆さんにこの夏魅力的なScotlandへのお誘いです。

「スコットランド・ツアー（2015年8月21日～30日）」参加者募集

JSA会員の方のためのScotlandへの旅、奮ってご参加ください。
宿泊はStirling大学関連施設ですので、EUで最も美しいと言われるCampus Lifeも楽しめます。
訪問先：スターリング大学、エディンバラ（世界遺産都市）
グラスゴー、ネス湖（一泊旅行8月22日～23日）、ウィスキー醸造所訪問など。
途中参加、早期帰国可能です。

「スターリング大学夏期英語研修（4週間：2015年8月3日～29日）」参加者募集

4週間の英語コースで本格的に英語の習得を目指したい方ご参加ください。
16歳以上であれば、英語能力も初級、中級、上級にクラスが分かれますので、特には問いません。
2週間、3週間の参加も可能です。

上記ツアーに興味のある方は気軽に連絡ください。会員のご家族、ご友人の方の参加も歓迎。
両イベントの期間、関妙子もStirlingに滞在します。どちらも締め切りは2015年5月31日です。
関 妙子 (Stirling University: Honorary Doctor)

〒161-0033 新宿区下落合 3-12-28-1401 TEL/ FAX : 03-5988-8785 携帯 : 090-7192-4650 E-mail: taeko.seki@gmail.com

@東京本部

- ・英会話教室：Discussion in English (毎月第2土曜日 17時～18時半、新宿区関会長宅)、
一般英会話(毎月第3土曜日 15時～16時半、大田区山口副会長宅)

@関西支部

- ・6月に関西支部総会を開催予定。(日時等詳細未定)
- ・スコットランド料理教室：4月26日、6月28日各日曜日の午後
- ・英会話教室：5月23日、9月12日各土曜日の午後。

上記、詳細はJSAホームページ<http://www.jpn-scot.com/>またはFacebookにて連絡します。

UNIVERSITY of
STIRLING



編集後記

御手にとってお読みいただき光榮です。日本・スコットランド両国でお互いの国の文化に触れる機会が増えているように感じます。皆さまお一人お一人に国を超えた繋がりを感じていただけるよう当協会の活動の輪がより広がっていくことを願います。



日本スコットランド交流
協会



編集長：真々田紫
本文編集協力：関妙子/後藤隆恭/齊藤七生/
堀内長太郎/飯村英人/石川晃士/柴田文子

東京本部 〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-12-28-1401, Tokyo Headquarters: 3-12-28-1401 Shimo-ochiai, Shinjuku-ku, Tokyo 161-0033
関西支部 〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町 2-5-3-906, Kansai Branch: 2-5-3-906 Shin-senri, Higashi-machi, Toyonaka-shi, Osaka 560-0082
中国支部 〒730-0814 広島県広島市中区羽衣町 13-12, Chugoku Branch: 13-12 Hageromo-cho, Naka-ku, Hiroshima 730-0814
九州支部 〒880-0032 宮崎県宮崎市霧島 2-23-2, Kyushu Branch: 2-23-2 Kirishima, Miyazaki-shi, Miyazaki 880-0032
東北支部 〒030-0196 青森県青森市合子沢山崎 153-4 青森公立大学 香取真理研究室内 香取薫, Tohoku Branch: Kaoru Katori, Prof Mari Katori's office, Aomori public University, 153-4 Yamazaki, Goshizawa, Aomori-shi, Aomori 030-0196